



合建第 469 号
平成20年10月24日

国土交通省道路局長 様

熊本県合志市長 大 住 清 昭



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり回答します。

【問い合わせ先】

合志市都市建設部建設課 担当者 上原
〒861-1193 熊本県合志市御代志 1661-1
TEL096-242-1276（直） fax096-242-3129
E-mail : t-uehara@city.koshi.lg.jp

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

熊 本 県 合 志 市

1. 国が行ってきた道路事業予算の措置については、期限付き暫定税率によって道路財源の確保がなされてきたところですが、税のあり方を見直すなど、道路財源のみの問題とせず、全体予算の中で道路予算の確定を求めます。
2. 道路関連法人の役割を国民に周知し、国税の使途を明確にしなければならないと考えます。
→官僚の天下りの廃止や法人等の統廃合など道路事業の公益性、効率性の追求
3. 都市部と地方との道路環境は、当然ながら大きな格差がみられることを充分踏まえて、整備方針を設定する必要があると考えます。都市部は、公共交通機関及び道路ネットワークが充実していることから、今後、排気ガスCO₂削減に向けた取り組みが重要であり、地方については、依然として都市部と対比して公共交通機関が未熟であり、また道路ネットワークもまだまだ未整備の実情であり、車社会中心であることを充分認識して環境問題と併せて道路網の構築を図る必要があると考えます。
4. 国は一極集中体制から都市分散型政策への移行、更には道州制の検討がなされている中、今後、地方の役割は、益々重要な位置を占めるものとなることから、地域間を結ぶ交通網の整備は必要不可欠であると考えます。
→スマートICの設置、地域高規格道路の整備
5. 幹線道路沿線に設置されている電柱については、車及び歩行者の通行の障害になっているので地中化への取り組みを進めてほしい。

②－１ 地域の現状と抱える課題

熊 本 県 合 志 市

○現状

- ・平成１８年度で３２箇所の未整備危険箇所がある。
危険箇所をなくす方向から危険箇所の住民を避難させる方向に変化している。
- ・人口増加に伴い交通量、車の保有台数が増加し、交通事故が増えている。
- ・合志市は県内で交通事故発生ワースト上位にある。
- ・交通事故死者数の約半数は６５歳以上の高齢者である。
- ・平成１６年から光の森の開発が進み大型ショッピングセンター等ができたことにより光の森への移動ニーズが高くなっている。
- ・合志市内を走る私電を利用する学生が多いが、電停までのアクセスが不十分である。
- ・公共交通機関が整備されていないため、通勤は自家用車の利用が多い。
- ・道路利用に関して市内移動、市外移動に満足している人の割合は約６割程度。朝夕の通勤通学時間帯では渋滞が発生している。
- ・平成１２年の国勢調査では通勤通学者の半数が隣接する熊本市へ向かっている。
- ・熊本市側に隣接する市域面積の約１割となる市街化区域に約６割の市民が生活しており、その市街化区域に接している市街化調整区域では、熊本市の生活圏ということから宅地開発が進んでおり、人口増加の要因になっている。

○課題

- ・避難誘導路となる非難施設への道路整備
→輸送路、緊急車輛の移動路等の確保
- ・交通量の変化に伴う既存道路の整備
→歩道、自転車道、離合可能な車道の整備
- ・交通安全施設等の設置及び整備
→歩行者用信号機、横断歩道等の設置
- ・大型幹線道路及び大型施設へのアクセス道路の整備 →渋滞解消対策
- ・公共交通機関の充実
→地域間を結ぶ公共交通機関のネットワーク化

- ・（仮称）東部工業団地、蓬原工業団地の拡張の構想がある。
市東部にはセミコンテクノパーク・企業集積ゾーンがあり朝夕の通勤、退勤時に交通渋滞が発生しており、道路利用の便益の面から企業の地域に与える影響が懸念されている。
- ・商店街がなく、個人商店が中心で商業の規模が小さい。
- ・工業団地として造成したものが4つあり、その他製造業である半導体、自動車部品、タバコ製造等の規模の大きい企業が立地している。また、隣接市町への大企業進出により、関連企業の進出が予測される。
- ・市の経常収支比率及び公債費率が悪化しており、特に教育・福祉関係の事業費が増加傾向にある。
厳しい財政事情から優先順位に基づく事業の取捨選択が必要となっている。
- ・市が管理する道路、橋梁については、耐用年数が相当経過しているものがあり、そのまま放置すれば重大な事故に繋がりがねないため、適宜、舗装打ち換えや補修等の維持管理を実施している。

- ・企業集積地域、住居地域など、その地域の道路事情に合った幹線道路及び生活道路網の構築
→市内10箇所の渋滞箇所の解消
幹線道路については、右折レーンの設置
変則交差点の解消
- ・自主財源確保に向けた企業誘致の推進とそれに伴う道路計画の策定
→九州縦貫道、空港、JRなどからの交通アクセスの強化
- ・道路整備については、効率性、有益性の追求
- ・計画的な道路、橋梁等の維持管理の徹底

②－２ 地域の目指すべき将来像

熊 本 県 合 志 市

- ・将来都市像として、「未来輝く産業・定住拠点都市」掲げ、将来都市像を実現させるための横断的課題として「子育て支援日本一のまちづくり」をテーマに合併による新たな市として“定住拠点”を目指し、多くの人や物、地域間相互の交流を促進し、新たな産業の創出を図ることとしています。

本市は、熊本市と隣接し、九州縦貫自動車道及び空港、ＪＲなどアクセス条件の整った地理的な広域交通上の優位性や九州沖縄農業研究センター、熊本県農業研究センター、国立電波高等専門学校、農業大学校など高度な学術研究機関が集積した環境を活かし、先進的な産業・技術の拠点として熊本県の中核的な役割を担うまちに飛躍していきたいと考えます。

- ・人口減少時代を迎えながらも本市においては、人口が増加しており、県内でも有数の元気の良いまちであることから日常生活での利便性、快適性、安全性を備えた安心して住み続けられる市としての「定住拠点都市」を目指します。
- ・「子育て支援日本一のまちづくり」は、若い年代の人々が合志市に生活拠点を築き安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを目指します。

→通学路や公園の整備、地域での子どもたちの見守り体制の確立、雇用の場の創出や自主財源確保のための企業誘致など、子育て支援を基本に誰もが住み良いと思うようなまちづくりを目指します。

様式 ④

熊 本 県 合 志 市

○重点事項 1. 都市交通の快適性、利便性の向上 2. 地域活力の向上	○代表事例 1) 合志市公共交通協議会を設置し、警察、学識者、輸送事業等関係機関等で組織し市域内の公共交通について検討しています。 2) 国道、県道の幹線道路や主要市道の右折レーンの設置など道路改良を行うと共に幅員の狭い生活道路の解消 1) 主要地方道大津植木線バイパス建設促進期成会により、市の横軸となる主要幹線道路の整備。 2) 九州縦貫自動車道北熊本サービスエリアへのスマートＩＣ設置（現在、設置に向けて準備中である。） 3) 中九州・地域高規格道路促進期成会を設置し、熊本市と大分市を結ぶ道路の早期整備に向けて要望活動を実施	○期待する効果や評価等 1) 市民の公共交通機関への利用度を高め公共交通の活性化を図る。 2) 交通渋滞を解消し、スムーズな交通を図る。 3) 緊急車輛の通行の妨げ解消。 1) 新市建設計画により市の産業、交通、居住空間の拠点としての地域活性化を図る。 2) 菊池地域は、優良企業の集積が進んでおり、今後益々その需要度は大きく期待されており、企業立地の優位性が高まる。 3) 地域間の距離が縮まり地域産業の活性化が図られ、企業誘致への環境整備が高まる。	○その他
--	--	---	-------------

3. 少子・高齢社会 に対応した子育て環境、バリアフリー社会の形成	1) 市内各学校区内の生活道路、幹線道路で通学路となっている歩道の設置、フラット化、歩道拡幅等の整備	1) 歩行者、学童の交通安全の向上 2) 歩道のフラット化による高齢者等への安全性の向上	
--	---	---	--